

(応援の感謝を伝える力で返したい)

代表者 萬燈 祐仁 (スポーツ総合課程 3年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、部活動を支えてくれている応援者（OB・OG、保護者、友人、地域住民など）に、より良い価値を提供し、恩返しをすることを目的として立ち上げた。プロジェクトのタイトル「応援の感謝を伝える力で返したい」は、その想いを端的に表したものである。

応援者に返す「より良い価値」とは、部員の人間的成長と競技力向上である。1回目アンケート（水泳部関係者・SNS閲覧者対象、有効回答81件）により、応援者から競技力向上と人間的成長が強く求められていることが明らかになった。それらを見える化し、透明性を高めて感謝の思いを伝える媒体としてSNSが必要であると判断し、SNSの運用改善に取り組んだ。あわせて、屋内プール改修に伴う遠征費増加に対し、保護者の追加負担を増やさずに、遠征費等を賄う手段としてクラウドファンディング（READYFOR）による資金調達にも着手した。クラウドファンディングは資金調達にとどまらず、地域企業との関わりを通じて部員の社会力向上や競技力向上にもつながる取り組みとして、本プロジェクトと接続している。

本プロジェクトでは、SNS 改善とクラファンの 2 本柱により、「伝える」
(成長・競技の様子を可視化する) ことと「競技力向上につながる環境づく
り」(遠征費調達・地域企業との関わりを通じて)の両面で、応援者への恩返
しにつながる取り組みを実施した。採択予算 83,060 円のうち請求させていた
だいた分は 59,000 円で、内訳は IT パスポート受験料 7,500 円、ChatGPT 利用
費(月額 3,000 円、2025 年 7 月～2026 年 2 月の 8 ヶ月で 24,000 円)、
Udemy 利用費 27,500 円である。デザインツール・Web サイト構築は実施して
いない。

2. 実施期間

2025 年 7 月 4 日 ～ 2026 年 3 月 12 日

3. プロジェクトの実施内容

①2025 年 10 月 12 日-30 日 水泳部 SNS において、水泳部関係者・SNS 閲覧者
を対象とした 1 回目アンケートを実施。隅野美砂輝先生の論文に基づく質問設
計により、有効回答 81 件を得た。応援者の属性、知覚価値、コンテンツニーズ
等を分析し、競技力向上・人間的成長へのニーズの高さを確認した。

②2025年11月1日 アンケート結果を踏まえ、SNS運用方針を策定。発信スケジュールの見直しを行い、練習・日常の様子、部員のコメント、試合の様子の可視化を強化した。Instagram・Xに加え、TikTokの投稿を開始した。

③ 2026年2月10日-24日 水泳部 SNSにおいて、改善後の効果を検証するため2回目アンケートを実施。「前回からSNSの投稿内容はよくなりましたか？」および「はい」と答えた人に「なにがよくなったか」を追加質問した。

④ 2025年11月5日～2026年1月14日クラウドファンディングの体制構築。代表・事務・SNSチーム・交渉5チームで役割分担し、リターン設計、営業マニュアル、企業向け説明資料を準備。企業訪問およびREADYFORのサイト準備を進めた。

⑤ 2026年1月15日 READYFORにてクラウドファンディングサイトを公開し、募集を開始。資金目標200万円（手数料込み）、競技目標は全国国公立水泳競技大会男女総合優勝とした。

2025年7月4日～ITパスポート学習、Udemy受講。試験は2026年3月10

日に博多で実施した。

ChatGPT（SNS 改善、アンケート結果の分析、クラウドファンディングの企画に利用。月額 3,000 円、2025 年 7 月～2026 年 2 月）を活用した。



4. プロジェクトの成果・学内や地域への波及効果

アンケート：水泳部の応援者（在学生の家族、OB・OG、地域住民等）に対し、部員の成長と競技の様子を可視化する SNS 発信を強化した。1 回目アンケート

(N=81) では、知覚価値として「成長の様子が見られてうれしい」56 名、「元気がもらえる」47 名、コンテンツニーズとして「練習の様子」68 名、「日常の

活動」59名、「部員やスタッフの紹介」51名が選択され、プロセスの可視化への要望が試合結果と同程度以上に高いことが確認された。閲覧頻度は「よく見る」が81.5%を占め、応援意向も高い水準にあった。2回目アンケートの集計結果により、改善の認知と具体的な評価を得た。

クラウドファンディング：学内外の支援者と水泳部をつなぐ新たな関係づくりの基盤を構築した。まだ実施中であり、募集継続中である。

5. 反省点・今後の展望(計画)・感想等

反省点

- ・ 1回目アンケートで「更新頻度の向上」を求める声があったが、運用体制や部員の負担のバランスを考慮しつつ、どこまで頻度を上げられるか、継続的に検討する必要がある。

- ・ クラウドファンディングでは、関係者間で認識の齟齬が生じるトラブルがあり、契約の場面では口頭ではなく紙を用いて明確に合意する必要性を改めて認識した。

- ・ デザイン・Webサイト構築は、クラファンとSNS改善の負担が大きく、本プロジェクト期間中には実施できなかった。

今後の展望

卒業論文：アンケートデータのクロス集計を行い、大学スポーツにおける SNS の役割を理論化する。

学内への波及（頼られた場合）：今後、頼られた場合は経験をもとに指導・助言することを考えている。

クラファン：10月まで継続

IT パスポート：結果は未発表。不合格の場合は再度挑戦する予定である。

感想

応援してくれている人に、何かいい恩返しの方法がないかという思いから始まった本プロジェクトは、アンケートによってニーズを可視化し、SNS とクラファンという 2 つの手段で「伝える」と「競技力向上につながる環境づくり」の両面から応える取り組みへと具体化した。SNS で成長や競技の様子を発信するには、競技力向上や部員の社会力向上そのものが求められる。クラウドファンディングに取り組むなかで地域企業との関わりが生まれ、その経験が部員の社会力向上や競技力向上につながる環境づくりになっていると感じた。採択いただいた予算を最大限に活用し、学んだことと実行したことの効果を測定するサイクルを回すことができた。今後も、応援者の期待に応えられるよう、発信と体制づくりを継続していきたい。

6. 実施メンバー

代表者 萬燈 祐仁（スポーツ総合課程 3年）

7. 執行経費内訳

配分予算		59,000 円		
執行経費（品目等）	数量	単価（円）	金額（円）	備考
ChatGPT	8	3,000	24,000	
IT パスポート受験	1	7,500	7,500	
Udemy	1	27,500	27,500	